

第95回 ISO/TMB（技術管理評議会） 結果報告

2026年4月13日

経済産業省 イノベーション・環境局

国際標準化調整官 大出 真理子

1. TMBとは	3
2. 結果概要	5
3. 決議事項	10
4. TMB通信投票決議一覧	23
5. その他	26

1. TMBとは

TMBとは

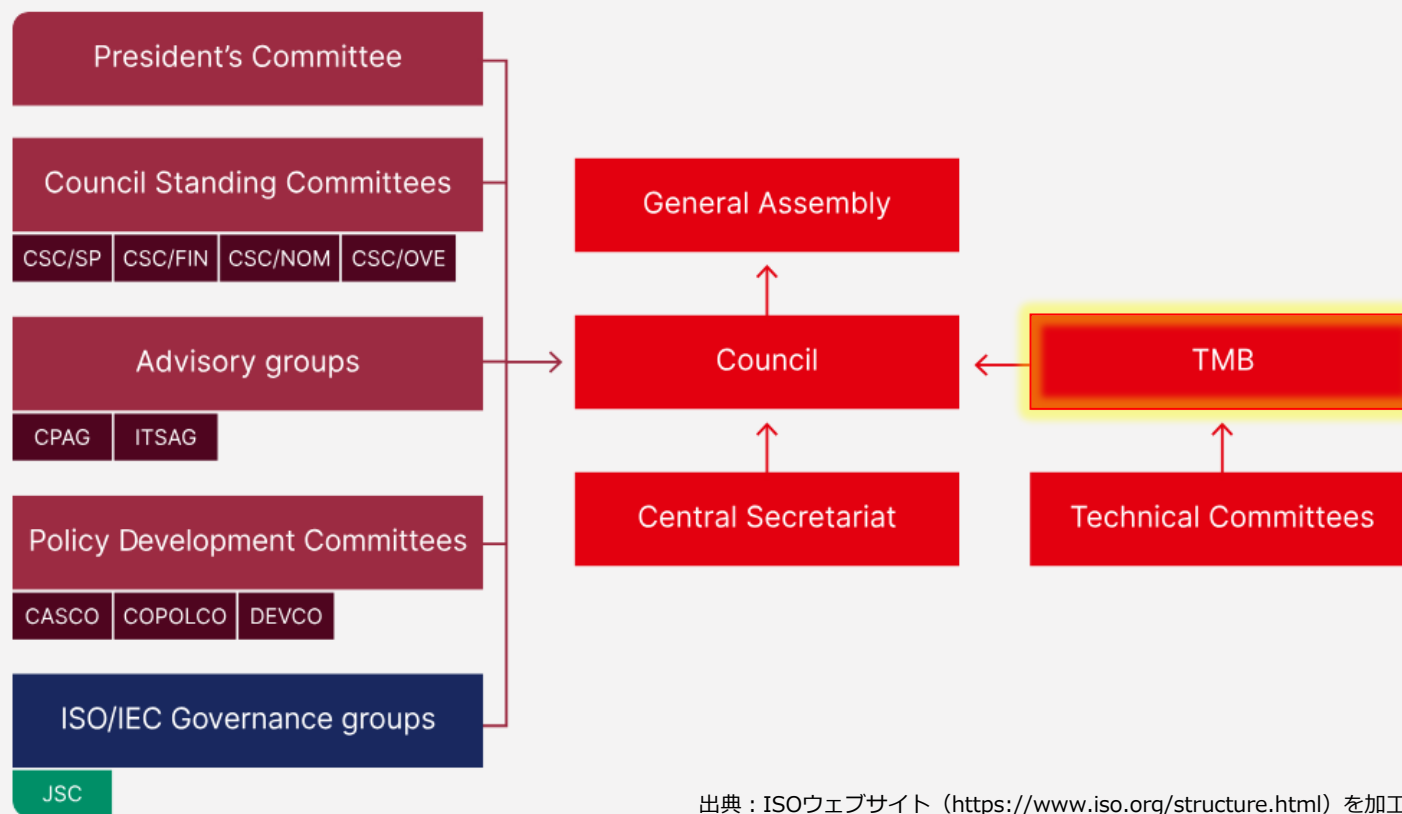
ミッション

- ISO規格作成に関する管理事務的事項
 - TC/SC/PCの設置・廃止
 - 議長任命
 - 幹事国割当
 - ISO/IEC専門業務用指針の改訂 等
- ISO規格作成に関する戦略的事項
 - 規格開発の効率化・迅速化
 - TC/SC戦略ビジネスプランの審議・承認
 - TC/SC活動の調整・モニタリング 等

Technical Management Board (TMB)

The management of the technical work is taken care of by the Technical Management Board, which reports to Council. This body is also responsible for the **technical committees** that lead standards development and any strategic advisory boards created on technical matters.

ISO Governance structure



出典：ISOウェブサイト (<https://www.iso.org/structure.html>) を加工

2. 結果概要

会議出席者

議長・メンバー

青字：リモート参加

議長 (ISO副会長 (技術管理担当))	氏名
TMB議長 (～2026)	Mr. Javier García
次期議長 (2027～)	Mr. Ruggero Lensi

ISO事務局	氏名
ISO事務局 Director, Standardization	Mr. Marco Rossi
ISO事務局 Head of Standards Development and Technical Policy	Mr. Antoine Morin
ISO事務局 Policy Officer	Mr. Thomaz Pollini

国・機関	TMBメンバー
伯 ABNT	Dr. Jorge E.R. Cajazeira
仏 AFNOR	Mr. Franck Lebeugle
米 ANSI	Ms. Sara Desautels
英 BSI	Ms. Amanda Richardson
独 DIN	Dr. Michael Stephan
デンマーク DS	Ms. Pouline Terpiger
日 JISC	Ms. Mariko Ohde
韓 KATS	Mr. Young-Jun Moon
ケニア KEBS	Mr. Zacharia Lukorito Chepkania
豪 SA	Ms. Karen Batt
中 SAC	Dr. Wei Sun
サウジアラビア SASO	Mr. Omar Algwaiz
スウェーデン SIS	Ms. Karin Lindmark
スイス SNV	Mr. Marcel Knecht
西 UNE	Mrs. Natalia Ortiz de Zárate

議題

1. **Opening of the meeting**
 - 1.1 TMB Chair introduction
 - 1.1.1 Declaration of conflicts of interest
 - 1.2 Adoption of the agenda
 - 1.3 Follow-up on TMB decisions and actions
2. **Report from the Chair**
3. **TMB work programme**
 - 3.1 TMB Strategic Overview
4. **Policy issues**
 - 4.1 NP and TS/P Voting Quorum
 - 4.2 Report - Current State of ISO Liaisons
5. **Activities of groups reporting to the TMB**
 - 5.1 TMB Projects (leading)
 - 5.1.1 **Committee Strategy Management**
 - 5.2 TMB Projects (contributing)
 - 5.2.1 **ISO Open Consultation**
 - 5.2.2 Governance review – Update
 - 5.2.3 CSC/SP-TMB Task Force on the review of Principles of cooperation with other organizations
 - 5.3 TMB Task Forces (TFs)
 - 5.3.1 **TMB TF on Stakeholder Engagement**
 - 5.3.2 TMB London Declaration Action Plan TF
 - 5.4 Strategic Advisory Groups (SAGs) ※該当なし
 - 5.5 Joint Groups with Partners
 - 5.5.1 **JSAG Gender Responsive Standards**
 - 5.5.2 Joint TMB/SMB Group on Artificial Intelligence – Update
 - 5.5.3 JTF JTC 1 – Phase 2 – Update
 - 5.6 Coordination Groups
 - 5.6.1 Climate Change Coordinating Committee (CCCC)
 - 5.6.2 Environmental, Social and Governance Coordinating Committee (ESGCC)
 - 5.6.3 Smart Farming Coordinating Committee (SFCC)
 - 5.6.4 Critical Minerals Coordination Committee (CMCC)

青字：TMB決議あり

黒字：TMB決議なし（情報提供等）

灰字：次回会合に延期

議題（続き）

6. Standards programme management

6.1 Committee activities

- 6.1.1 ISO/TC 309 SNV objection to liaison eligibility
- 6.1.2 Engaging with the 2025 LD Eicher award winner
- 6.1.3 ISO/IEC JTC 4 Progress Report
- 6.1.4 ISO/GHGP Partnership - Update

6.2 Deferred decisions

- 6.2.1 6.2.1 VF 2/2026 on the allocation of ISO TS 15066 between ISO/TC199 and ISO/TC 299

6.3 Proposals for new fields of activity

- 6.3.1 TS/P on Wound dressings and compresses

7. TMB monitoring and performance improvement

- 7.1 TMB Dashboard
- 7.2 Risk register review
- 7.3 TMB Secretariat yearly survey – Review of results

8. ISO/IEC Directives

- 8.1 JDMT recommendations

9. ISO and its Partners

- 9.1 IEC update
- 9.2 CEN/CENELEC – Update on the Vienna Agreement Implementation Guidance
- 9.3 Kigali Agreement implementation

10. IT Reports

- 10.1 Digitalisation (OSD + SMART)
 - 10.1.1 OSD
 - 10.1.2 SMART
- 10.2 Update on IT projects

11. Important dates

- 11.1 Dates, places and subjects for the next TMB meetings

12. Any other business

- 12.1 TMB ITSAG representative appointment
- 12.2 IEC decisions
 - 12.2.1 Joint SyC on Metaverse
 - 12.2.2 JAG inclusive terminology

- Presentation of BSI's impact assessment on the new MSS requirement

青字：TMB決議あり

黒字：TMB決議なし（情報提供等）

灰字：次回会合に延期

概観

第95回TMB会合概要

- **2026年3月3日～5日に第95回TMB会合が豪シドニーにて開催**。TMB会合は対面では年3回開催されており、今回は本年の初回（次回は6月にSMBと同時開催、次々回は9月のISO総会ウィークに開催）。
- 本会合のスケジュールは、3月3・4日がワークショップ、3月5・6日がTMB会合の予定であったが、**会合直前の中東情勢悪化の影響で中東経由のフライトがキャンセルされたことで欧州勢を始めとするTMBメンバーの現地参加が難しくなった**ことに伴い、**一部プログラムを中止**し、急遽3日～5日の午後の時間帯（＝欧州との時差を考慮）に**ハイブリッド形式**でTMB会合を行うこととなった。
- 会議の合計時間が予定よりも短縮されたため、いくつかの議題は本年6月の次回会合に延期され、必要に応じてオンライン会合を開催して対応することとなった。なお、**ISO事務局は中東情勢悪化を踏まえ、柔軟にバーチャル／ハイブリッド形式で各種会議を開催するよう3月2日付で全TCに要請**しており、本TMB会合を成功例としてメンバー国に説明している。

3. 決議事項

(本資料に掲載した決議文は、JSAが作成・公開している日本語訳を一部抜粋したものです。決議の正文はISOポータルをご確認ください)

TMB決議 21/2026

ISO戦略計画タスクフォース（SPTF）の任務延長

Extension to the mandate of the ISO Strategic Planning Task Force

TMBは、

ISO戦略計画タスクフォース（ISO/TMBG/SPTF）のタイムラインを、2026年6月までにすべての成果物を完成させるために変更することに同意し、

ISO/CSに対し、SBP文書を専門委員会のウェブページに直接リンクすることの実現可能性を検討することを求める。

- TMB決議14/2022に基づいて設立された**ISO戦略計画タスクフォース（ISO/TMBG/SPTF）**（注：ISO戦略2030の一環として、ISOの各委員会の戦略管理プロジェクトの実施について助言するため、2022年に設立された会議体）について、当初は3年間の時限で設置され、その後TMB決議61/2025により設置期限が2025年末まで延長されてきたが、**2026年6月まで設置期限を延長**することを承認した。委員会戦略管理プロジェクトの最終報告書は2026年6月にTMBに提出される予定。
- **SBP（戦略ビジネスプラン）文書**（注：TC/SC内でトレンドや市場ニーズをより良くとらえ、作業プログラムに落とし込む文書）について、ユーザ利便性向上のため、SBP文書をTCのウェブサイトに直接リンクさせられるか検討することをISO中央事務局に要請した。

TMBは、
リソース効率の高いソフトウェアに関するオープンコンサルテーション報告書を受け入れ、
ISO/IEC JTC 1に対し、報告書の調査結果のレビューと検討を促し、
ISO/IEC JTC 1に対し、2026年10月までに調査結果と推奨事項をTMBに報告するよう求め、
ポジショニング、ナビゲーション及びタイミングサービスに関するオープンコンサルテーション報告書を受け入れ、
ポジショニング、ナビゲーション及びタイミングサービスに関する提案を、通常の提出プロセスに従って提出するよう促し、
ISO/CSに対し、オープンコンサルテーションプロジェクトの成果を踏まえ、2024年版新業務についてのガイダンスを更新するよう求め、
SMBに対し、TMBと共にISOの調整委員会の構造とシステム委員会（SyC）の枠組みの統合について検討するよう促す。

- 理事会決議12/2024で承認され、標準化前のプロセスとして2024年に開始した「オープンコンサルテーション」 手続（注：ISO戦略2030の目標の1つである「世界的なニーズを満たす」ための、「国際標準化の将来の機会を捉える」取組として位置付けられてきた）について、パイロットプロジェクトの成果が理事会に提出されたことを受け、（恒久的なプロセスとして導入せず）終了し、今後は、標準化に対するステークホルダーの期待が不明確なトピックはSEG（システム評価グループ）、異なる技術構造にまたがる明確な標準化ニーズを満たすためのロードマップが必要なトピックにはSAG（戦略諮問グループ）という既存の枠組みがそれぞれ役割を果たしていくことになった。

TMB決議 23/2026

TMBステークホルダーエンゲージメント・タスクフォース – 最終報告書および推奨事項

TMB Task Force on Stakeholder Engagement – Final report and recommendations

TMBは、

報告書に示されたステークホルダーエンゲージメント・タスクフォースの推奨事項を受け入れ、

推奨事項4および12は、TMBが主導する既存のイニシアチブを通じて推進されることに留意し、

推奨事項6に対応する提案を、2026年6月のTMB会議に提出することを要請し、

ステークホルダーエンゲージメント・タスクフォースのリーダーであるFranck Lebeugle (AFNOR) と、ABNT, SA, SIS, BIS, SAC, DIN, BSI, KEBS のタスクフォースメンバーに、この取り組みへの多大な貢献に感謝し、

タスクフォースを解散する。

- TMB決議18/2025に基づき設置されたTMBステークホルダーエンゲージメント・タスクフォース（注：ISOへのより広範なステークホルダーの関与と幅広い代表性を目指し、既存のガイダンスの見直しを実施）から出された勧告（全14項目）を承認。任務の完了によりTFは解散する。
 - 推奨事項4 最低限のPメンバー参加：新規作業項目提案（NP）ワーキンググループ（WG）の設立又は継続に関する承認基準と閾値（次回TMB会合に延期）
 - 推奨事項6 NSB職員又はISO職員へのステークホルダーカテゴリーの割り当て
 - 推奨事項12 リエゾンの貢献の見直し（次回TMB会合に延期）
- 勧告を受けて、既存の2ガイダンス（2019年版国家規格団体向けガイダンス、2011年版リエゾン機関向けガイダンス）が廃止され、最新のステークホルダーエンゲージメントガイダンスに置き換えられた。これにより、ステークホルダーカテゴリー（注：現在はA～Gの7種類）に標準化機関向けの新カテゴリー「H」が創設されるとともに、既存カテゴリーも更新される。

TMB決議 24/2026

ジェンダー対応規格（GRS）に関する ISO/IEC JSAG

ISO/IEC JSAG on Gender Responsive Standards (GRS)

TMBは、

ジェンダー対応規格（GRS）に関するISO/IEC合同戦略諮問グループ（JSAG）の最終報告書に感謝し、SMBが承認した推奨事項（SMB決定185/11）に賛同し、

宣言の展開による影響を評価するため、2年以内にTMBに報告書を提出するよう要請し、

ジェンダー対応規格に関するISO/IEC JSAGの任務完了に留意し、解散することに同意する。

- TMB決議9/2020に基づき設立された**ISO/IEC JSAG on GRS（ジェンダー対応規格に関するISO/IEC合同戦略諮問グループ）**から出された**最終報告書中の勧告（全5項目）**について、**本年2月のSMB決議でSMBが既に承認しているところ、TMBもこれに賛同。任務の完了によりJSAGは解散する。**

- 勧告1 既存のISO/IECリソースの活用
- 勧告2 宣言書様式（附属書B）の更新
- 勧告3 NP提案書様式へのジェンダー宣言欄の追加
- 勧告4 GRS宣言書様式（附属書B）の提出時期（照会段階（DIS/CDV）で義務化）
- 勧告5 本JSAGの解散

- 勧告を受けて、今後、**新規作業項目（NP）提案にジェンダーの関連性・影響の考慮に係る問いが追加**されるとともに、**DIS段階でジェンダーに関する宣言の提出**が要求される。これらによって、標準化プロセスの重要な段階でジェンダーの影響が一貫して考慮されるようになるが、**宣言の展開によるインパクトを評価するため、2年以内にTMBに報告書を提出**するよう要請した。

TMB決議 25/2026

ISO/TC 309 SNV によるリエゾン資格に関する異議

ISO/TC 309 SNV objection to liaison eligibility

TMBは、

Globethics社によるISO/TC 309へのカテゴリーAリエゾン資格申請に留意し、

SNVが提起した懸念事項、および専門業務用指針および関連ガイダンスにおける適用基準に留意し、

リエゾンを承認しないことを決定し、その組織に対しSNVと直接協議するよう促し、

ISO/CSに対し、TMBでの議論の成果を前進させるようさらに促し、次回会合においてリエゾンメカニズムと関連基準について更なる検討を行うことに合意する。

- スイス・ジュネーブに本部を置く非営利組織が、ISO/TC 309（組織のガバナンス）へのカテゴリーAリエゾン（注：委員会の全関連文書へのアクセス権があり会議に参加可能）の資格を申請。Directives（ISO/IEC専門業務用指針）1.17項に則り、申請書提出を受けたTC事務局がISO中央事務局に、ISO中央事務局が申請組織本拠地国の国家標準化機関（SNV）に照会を実施。ISO中央事務局は申請を承認したが、SNVが、当該組織がカテゴリーAリエゾンの適任性要件である利害関係者の関与に関する正式な手続や会員制に基づく代表制を十分に示していないとして反対し、本件がTMBで審議されることとなった。
- TMBは、（TMBが直接）リエゾンを承認することはせず、（SNVが当該組織と直接やりとりしていないことも踏まえ）当該組織に対しSNVと直接協議するよう促した。また、既にリエゾンとなっている者の中にも現行の適任性基準を満たしていない者が少なくない、そもそもリエゾンの適任性の判断基準が明確でない等の課題も踏まえ、次回TMB会合においてワークショップを開催し（要すれば次回会合の前にオンライン会合を行い）、リエゾンメカニズムや適任性基準について更なる検討を行うことに合意した。

TMB決議 26/2026

ISO/PWI 15066-1 – 協働安全 – 物理的接触 – 第1部：生体力学的閾値およびデータ の割り当て

Allocation of ISO/PWI 15066-1 – Collaborative safety – Physical contact – Part 1: Biomechanical thresholds and data

TMBは、

ISO/PWI 15066-1 – 協働安全 – 物理的接触 – 第1部：生体力学的閾値およびデータ のISO/TC 299ロボティクスへの割り当てを確認し、

ISO/TC 299に対し、本プロジェクトの名称及び適用範囲がISO/TC 299の業務範囲内に収まるよう要請し、ISO/TC 199とISO/TC 299に対し、ISO/TC 299の管理主導の下、合同作業グループ（JWG）メカニズムを通じて本プロジェクトの開発に協力するよう要請する。

- ISO/TC 299（ロボティクス）は、ISO/TC 199（機械類の安全性）とJWGを設立して「ISO/TS 15066:2016 ロボット及びロボティックデバイス－協働ロボット」を改訂する意向であったが、TC 199は共同改訂に同意せず、割り当てをTMBが判断することになった。TMB通信投票（02/2026）においては、TC 299への割り当て支持が過半数を占めたものの、決議延期の投票も多数あったため、TMB会合で議論されることとなった。なお、本件は両当事国がTMBメンバー国（TC 199幹事国はドイツ、TC 299幹事国はスウェーデン）。
- 本件議論においては、本件規格がタイプB規格（注：個別の製品規格ではなく、広範な機械類に適用できる安全面を規定する規格）であるためTC 199が管理主導することが適切であるとの立場と、本件規格の議論にはTC 299の専門知識が必要となるためTC 299の管理主導が適切であるとの立場に分かれた。
- 議論の結果、最終的な結論として、「ISO/PWI 15066-1 – 協働安全 – 物理的接触 – 第1部：生体力学的閾値およびデータ」をTC 299に割り当て、（TC 199との重複回避のため）TC 299に対して本プロジェクトの作業がTC 299のスコープに収まるようにすることを要請するとともに、TC 199とTC 299に対し、TC 299の管理主導の下、（ロボット工学と機械安全の双方の専門知識を活用する）JWGメカニズムを通じて本プロジェクトの開発に協力するよう要請した。

TMB決議 27/2026

創傷被覆材及び圧迫材 に関するTS/P提案の審査

Review of TS/P proposal on Wound dressings and compresses

TMBは、

創傷被覆材及び圧迫材に関するTS/Pの審査がISO/IEC専門業務用指針箇条1.5.5に従って完了したことを確認し、

提案をすべての会員団体に回付することを承認する。

- 本件はSASO（サウジアラビア）による新規提案。本件提案のスコープ（注：包帯、絆創膏など）が限定的であり、またISO/TC 194（医療機器の生物学的安全性及び臨床評価）、ISO/TC 76（医療用輸血装置）、ISO/TC 210（医療機器を含む健康目的の製品の品質管理と対応する一般的側面）といった既存TCが本提案の割当先となり得ることから、TMB会合で議論されることとなった。
- TMB会合では、SASOから、本件新規提案の意義や新規TCの下でのISO規格作成の必要性についてのプレゼン及び質疑応答が行われた。
- 議論の結果、最終的な結論として、本件プロジェクトは複数規格の作成を企図するものである（注：TC設置提案への対案である）PC設置は適切でなく、また新規プロジェクトとして本件を開始すること自体への反対意見はなかったことを踏まえ、本件TS/P提案（TC設置提案）をすべての会員団体に回付する（=MB投票に進む）ことを承認した。

TMB決議 28/2026

JDMT 2025年8月, 11月, および2026年1月会合における推奨事項

Recommendations from the JDMT August and November 2025 and January 2026 meetings

TMBは,

JDMT 2025年11月会合における以下の推奨事項 (略) を承認し,

JDMT 2026年1月会議における以下の推奨事項 (略) を承認する。

- ISO/IEC Directives (専門業務用指針) のメンテナンスは元来TMB業務であるところ、JDMT (合同専門業務用指針メンテナンスチーム) がIEC/SMB及びISO/TMBから諮問を受けた諮問機関として活動している。TMBはJDMTの勧告について承認を求められており、重大な懸念がある場合に限り本会合で議論し異議を提出する。
- 議論の結果、2025年11月及び2026年1月のJDMT会合の勧告を承認しつつ、以下の2点についてJDMTに意見提出することとなった。
 - ① 4.3 (Review Requirements) : 規格の見直しについて、ISOは5年ごとの定期見直し (SR) 、IECは安定期日 (注: 規格の見直し期日を予め定めておく) 方式をとってきたところ、改定版ISO/IEC Directives Part 1 (DP 1) では安定期日方式を採用予定。現行、IECでは、当該暦年に安定期日が到来する規格のリストについて、当該TCのメンバーのみに回覧しているところ、より広範なフィードバックを受けることを可能にするべく、(ISOの現行SRと同様に) 全ISO/IEC加盟国に回覧するべき。また、各国機関は、外部関係者からのフィードバックを収集・評価するための適切な仕組みの整備を確保する。
 - ② 附属書 F.2 (Adoption Process) : 現行のDP 1には、ファストトラック手続 (迅速法) という、ISO/IEC以外の既存規格 (注: フォーラム標準や国家標準) をベースに、通常より迅速に審議を行い国際標準化する方式が存在。改定版DP 1では、これとJTC 1における類似の方式を併せて、採択プロセスという新たな手続を設ける予定。この採択プロセスに関し、照会段階 (Enquiry stage) の投票で寄せられたコメントを検討する手続が欠けており、WTO TBT協定の透明性原則や合意性原則に違反する懸念があるため、Pメンバーによる投票に進む前の委員会における合意形成プロセスや、投票でPメンバーから寄せられた技術的コメントに係る判断プロセスに関する記述を追加する。

TMB決議 29/2026

オンライン規格開発（OSD）の採用 | Online Standards Development (OSD) adoption

TMBは、
OSDプラットフォームをISO文書開発のデフォルトオプションと見なしてから1年が経過した現在、委員会による採用率に留意し、
ツールの導入に関するフィードバックと、機能強化のために進行中の改善について留意し、
指導的立場にあるISO/CSおよびISO会員に対し、ツールを使用していない委員会に参与し、その理由をより深く理解するよう要請し、
OSDが適格なISO規格類のためのデフォルトプラットフォームであることを再確認し、
OSDを使用しないことを選択したISO委員会に対し、委員会からのフィードバックを理解するため、その理由を明確に示すことを要求し、
2026年12月31日までに、OSDの使用経験がなく、ステージ40.00未満の適格プロジェクトを有するすべてのISO委員会は、OSDで開発されるアクティブなプロジェクトを少なくとも1件有することを要請する。

- TMB決議68/2024に基づき、**2025年1月以降、OSDプラットフォーム**（注：ISO/IECが規格のSMART化も見据え開発・普及に取り組んでいる、オンライン上で効率的かつ共同で規格開発を進めるためのプラットフォーム。ドラフトの作成・編集や、ドラフトに対するコメントの提出・集約がプラットフォーム上で可能）**はISO規格開発のデフォルトの選択肢。新規プロジェクトにおける採用率80%を目標**としている。
- ISO中央事務局はこの目標達成に向け、研修へのユニバーサルアクセス、熟練スタッフの配置といった各種取組を行っているが、実際にはOSDの使い勝手の悪さやシステムへの慣れという障壁もあり、**採用率は目標に届いていない**。採用率の伸び悩みの背景には委員会によるOSD利用率の格差があり、委員会間で固定化したデジタル格差が生じるリスクが指摘されている。**OSDを採用しなかったプロジェクトの大半は「選好」（従来の慣行、新たなワークフロー習得への躊躇等）を理由**としている。
- 上記の状況を踏まえ、TMBは、**OSDが規格開発におけるデフォルトのプラットフォームであることを改めて確認し、OSDを使用しないことを選択した委員会に対してその理由を明確に示すことを求めるとともに、2026年12月31日までに、OSDの使用経験がなく、ステージ40.00未満の適格プロジェクトを有するすべてのISO委員会は、OSDで開発されるアクティブなプロジェクトを少なくとも1件は持つようにすることを要請した。**

TMB決議 30/2026

TMB ITSAG代表

TMB ITSAG Representative

TMBは、

Franck Lebeugle (フランス) をITSAGへのTMB代表に任命する。

- ITSAG (IT戦略諮問グループ) は、ISO理事会の下に設置された諮問グループ。ISOのIT戦略の実行支援やIT戦略プロジェクトの実施計画の調整等、ISOの情報技術に関連する事項について理事会に助言・指導を行う。
- ITSAGには、グループ1の加盟国代表 (計6名)、グループ2・3・4国の加盟国代表 (計8名) に加えて、TMB、CPAG (販売諮問グループ)、DEVCO (発展途上国対策委員会) といったISO内の他のガバナンスグループの代表者 (各1名) や、パートナー機関であるIECやCEN-CENELEC (欧州標準化機関) の事務局 (各1名) がメンバーとして参加。
- TMB代表について、2025年に前の代表者が急逝後しばらく欠員となっていたことから、今回の会合で新たな代表者を選出。**仏TMBメンバーがITSAGのTMB代表に任命された。**

TMB決議 31/2026

メタバースに関するISO/IEC共通システム委員会

Common ISO/IEC Systems Committee on Metaverse

TMBは、

IEC/SMBからのメタバースに関するISO/IEC合同システム委員会の設置の促しに留意し、

TMB決議52/2025に基づき、ISO/CSに対し、関係委員会と協議を行い、フィードバックを収集するよう要請し、

ISO/CSに対し、メタバースに関するISO/IEC合同システム委員会の設置に関する共通の決定に達することを目指し、このフィードバック収集のタイミングを、IECの提案が承認のために各国内委員会に回付される時期と整合させるよう求める。

- メタバースについては、これを包含しエンドツーエンドのシステム視点で扱うJSyC（ISO/IEC合同システム委員会）を設立すべきという2025年6月のJSEG 15からの勧告を受けて、SMBは同月のSMB決議でこれを承認した。TMBはTMB決議52/2025において、同年10月のTMB会合までに関連委員会と報告書を共有し、フィードバックを提供するようTMB事務局に要請した。
- その後、SMBは本年2月のSMB決議において、TMBに対し、メタバースに関するJSyCの設置機会を検討するよう要請した。これを受けて、TMBはこの促しに留意しつつ、ISO事務局に対して、関係委員会と協議を行い、フィードバックを収集するよう改めて要請するとともに、メタバースに関するJSyCの設置に関する共通の決定に達することを目指し、このフィードバック収集のタイミングを、IECの提案が承認のために各国内委員会に回付される時期と整合させるよう求めた。
- なお、IEC側は、まずSyCを設置した上で、TMB側の承認が得られ次第IEC SyCをISO/IEC Joint SyCに改組する方針を本年2月のSMB決議で承認している。

TMB決議 32/2026

人工知能ガバナンスに関する ISO/IEC合同タスクフォース

ISO/IEC Joint Task Force on Governance of Artificial Intelligence

TMBは、

AIパイロット活動の調整と教訓の共有を削除することにより、JTFの業務範囲を変更するSMB決定185/12に賛同する。

- **ISO/IEC JTF on Governance of AI (人工知能のガバナンスに関するSMB/TMB合同タスクフォース)** は、TMB決議71/2024及びSMB決議180/7に基づき、AI分野の専門コミュニティに影響を与える活動をISO/IEC間で調整するために設置され、**業務範囲**は以下のとおり定められた。
 - ① IEC 及び ISO 委員会向けの AI 使用ガイドの内容をメンテナンスし、その実装を監視する
 - ② 専門活動での AI の使用に関する IEC 及び ISO 委員会からのフィードバックを収集する
 - ③ **AI パイロット活動を調整し、学んだ教訓を共有する**
- このうち**③の業務**に関して、ISO/IEC内の同種の活動の効率化のため、**本JTFの業務範囲から削除**する案がJTF側から提示され、**本年2月のSMB決議でSMBが既に承認しているところ、TMBもこれに賛同**した。

5. TMB通信投票決議一覧

(2025年第94回TMB会議以降～2026年第95回TMB会議まで)

TMB決議 98/2025 ～ TMB決議 116/2025

TMB決議 98/2025	ISO/IEC 82474-1 材料情報開示 – 第1部：一般要求事項の水平文書としての承認
TMB決議 99/2025	ISO 23726-3 オートメーションシステム及び統合 – オントロジーベースの相互運用性 – 第3部：産業データオントロジー、および ISO 23726-100 オートメーションシステム及び統合 – オントロジーベースの相互運用性 – 第100部：スケジュールデータオントロジーに関するメンテナンス機関（MA）の承認
TMB決議 100/2025	ISO/TC 150/SC 4 人工関節及び人工骨の再割り当て
TMB決議 101/2025	ISO/IEC Guide ジェンダー対応規格の委員会原案投票のための ISO/TMB への提出
TMB決議 102/2025	TC議長の任命（2025年9月）
TMB決議 103/2025	工業製品の温室効果ガス会計基準の調和と相互運用性を可能にするための工業製品の製品カテゴリ規則策定に関するガイドラインに関する IWA
TMB決議 104/2025	ペット用品に関する専門委員会（ISO/TC 355）
TMB決議 105/2025	TC議長の任命（2025年9月） – 追加
TMB決議 106/2025	ISO/IEC 21838-5：情報技術 – トップレベルのオントロジー（TLO） – 第5部：統合基礎オントロジー（UFO）のメンテナンス機関（MA）の承認
TMB決議 107/2025	ISO 18245 個人向け金融サービス – マーチャントカテゴリコードに関するメンテナンス機関ガイドライン更新版の承認
TMB決議 108/2025	ISO 8583 金融取引カード始発メッセージ交換メッセージ仕様に関するメンテナンス機関ガイドライン更新版の承認
TMB決議 109/2025	SAC と ASN 間の ISO/TC 351（コンタクトセンター）に関する幹事国ツイニング協定の承認
TMB決議 110/2025	ISO Guide 78:2012 機械の安全性 – 安全規格の原案作成及び提示に関する規則の改訂
TMB決議 111/2025	ISO/TC 309 の下の、組織のためのコンプライアンス管理に関する新しい分科委員会（SC 1）の設置
TMB決議 112/2025	ISO/TC 82（鉱山）の再割り当て
TMB決議 113/2025	廃止投票への異議（2025年第3四半期）
TMB決議 114/2025	TC議長の任命（2025年10月）
TMB決議 115/2025	ISO/TC 10/SC 10（プロセスプラント）の再割り当て
TMB決議 116/2025	ISO/TC 126/SC 2 の解散

TMB決議 1/2026 ~ TMB決議 20/2026

TMB決議 1/2026	TC議長の任命（2025年11月）
TMB決議 2/2026	ISO/TC 309 の下の、人間の尊厳に関する新しい分科委員会（sc 2）の設置
TMB決議 3/2026	ISO/TC 86 の下の、コア冷凍機部品の試験及び評価に関する新しい分科委員会（sc 9）の設置
TMB決議 4/2026	デジタル製品パスポートに関する ISO/IEC 合同専門委員会（JTC）の設置
TMB決議 5/2026	合同専門委員会に関する TMB/SMB 合同タスクフォース（JTF JTC）の再開
TMB決議 6/2026	TC議長の任命（2025年11月） – 追加
TMB決議 7/2026	改訂版「統合マネジメントシステム–実用ガイド」（旧 IUMSS）の承認
TMB決議 8/2026	TC議長の任命（2025年12月）
TMB決議 9/2026	ISO/TC 48 の下のマイクロ流体デバイスに関する新しい分科委員会（sc 10）の設置
TMB決議 10/2026	子どもの権利マネジメントに関する専門委員会（ISO/TC 356）の設置
TMB決議 11/2026	ISO/TC 93 の下の加工デンプンに関する新しい分科委員会（sc 2）の設置
TMB決議 12/2026	ISO/TC 6（紙、板紙及びパルプ）の業務範囲の変更、ならびに ISO/TC 6 の下のパルプ及び製紙産業における機械及びプロセスの安全性に関する新しい分科委員会（sc 7）の設置
TMB決議 13/2026	ISO/TC 17 の下のステンレス鋼及び耐熱鋼に関する新しい分科委員会（sc 22）の設置および幹事国の割り当て
TMB決議 14/2026	ISO/TC 161 気体及び液体燃料用制御及び防護装置の業務範囲の変更
TMB決議 15/2026	ISO/TC 249（伝統的医療）の業務範囲の変更
TMB決議 16/2026	ISO/TC 82/SC 8（自動化および自律型採掘システム）の幹事国の再割り当て
TMB決議 17/2026	TC議長の任命（2026年1月）
TMB決議 18/2026	ISO/TC 35/SC 16（化学分析）の解散
TMB決議 19/2026	ISO/TC 344（イノベーティブ物流）の名称および業務範囲の変更の承認
TMB決議 20/2026	ISO/IEC JTC 1（情報技術）の戦略ビジネスマプラン（SBP）の承認

6. その他

今後の会合予定

TMB会合

会議	日程	場所
第96回TMB会合	2026年6月22日～25日 (2026年6月22日 TMB/SMB合同会合)	マドリード (スペイン)
第97回TMB会合	2026年9月28日	パリ (フランス)
第98回TMB会合	2027年3月	TBC (韓国)
第99回TMB会合	2027年6月	ヴィンタートゥール (スイス)
第100回TMB会合	2027年9月	イスタンブール (トルコ)
第101回TMB会合	2028年3月	TBC (米国)

第95回TMB会合（ハイブリッド開催）



ご清聴ありがとうございました

経済産業省ウェブサイト（標準化・認証政策）

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html>

日本産業標準調査会（JISC）ウェブサイト

<https://www.jisc.go.jp/>

一般社団法人 日本規格協会（JSA）ウェブサイト（TMB決議集などを掲載）

https://webdesk.jsa.or.jp/common/W10K0500/index/dev/std_hokokukai